

令和2年度 厚田区地域おこし協力隊活用検討委員会 委員名簿

令和2年9月7日現在

	氏名	選出団体等
委員長	渡邊 教円	厚田区地域協議会（会長）
委員	築田 敏彦	厚田区地域協議会（副会長）
委員	美馬 康子	地域振興団体（厚田童話を読む会）
委員	大内さつき	地域振興団体（厚田区コミュニティ「ゆめ倶楽部」）
委員	小山 玲子	産業団体（商工）
委員	八木沼幸恵	産業団体（農業）
委員	堀内 智睦	産業団体（漁業）
委員	渡邊 孝明	道の駅石狩「あいろーど厚田」
委員	小島 拓也	地域おこし協力隊経験者
委員	東 幸子	移住・定住者

●事務局：厚田支所地域振興課 高田靖仁・永塚俊幸

活動の検証結果

令和2年9月7日（月）開催 第1回厚田区地域おこし協力隊活用検討委員会より

【主な意見】

- 現在のメンバーはコロナ禍で活動が制限されている中、最大限の活動をしている事は評価できる。
- フェイスブックなどの情報発信はこまめに行われて大変頑張っていると感じる。
- 反面、スマホやネットなどの環境がない高齢者などは、活動の詳細を知る機会が少なく地域への認知度は低いと感じる。
- 4名体制となりチームとしても活動できる様になったことは評価できる。地域おこし協力隊全員で医療や介護施設関係団体に「手作りマスク」を寄贈してくれた取り組みは非常に良かった。
- 個々の活動では地域に活かせる力に限りがあるのではないかと感じるが、チームとしての取り組みは個々の力を結集することで、個以上の大きな力となり、今後も互いに協力・連携を図り活動に取り組むためにも、4名体制を引き続き維持していく事が良いと感じている。
- 隊員同士のコミュニケーションは図れていると思うが、コロナ禍もあったと思うが…もっと地域に入り込んで認知度を高めてほしい。
- 少子高齢化の中、協力隊のOB・OGが卒業後も区内・市内に居住している事は地域にとって大変ありがたい話しであり、この制度活用の成果であると高く評価している。
- JA 女性加工グループに女性隊員がお手伝いに来てくれ大変助かったとの話を聞いた。地域には、数々の団体が存在するが、どの団体も少子高齢化の中、後継者不足という大きな課題を抱えており、協力隊の地域への関わり・貢献活動は今後も期待されていると強く感じる。

今後は個々の活動に加え、協力隊4人のメリットを活かし、地域に貢献できる活動もこれまで以上に意識し取り組んでいただきたい。本来2人を4人まで増員した目的の一つに、個々の活動に加え、チームで活動することで、より協力で地域をサポートできる力に繋がるだろうということを考慮したもの…

今後も引き続き協力隊に対する地域の期待は大きく、隊員の取り組みに期待したい。

以上、検証を踏まえ、厚田区地域おこし協力隊活用検討委員会としては、4名体制を維持する方向で、次年度1名の募集を行うことを決定し、地域協議会に提案する。

今後の予定スケジュール

【検討委員会】

- ① 令和2年9月7日 検証と導入可否を決定 済
※9月24日 地域協議会へ報告・提案（答申①：導入の可否） 済
9月以降～12月中
必要とする人材の詳細を整理
※12月 地域協議会において募集要項の提案・承認（答申②）

【石狩市】

- ② 令和3年1月以降 新規協力隊の募集（具体的な日程は未定）
・チラシの配布（札幌・首都圏）、各団体の募集サイト
・首都圏イベントの活用（東京石狩事務所に依頼）
・市HP、協力隊Facebook、協力隊個人SNS 等
- ③ 3月上旬 1次審査（書類選考）
④ 3月中旬 2次審査（面接）
⑤ 3月下旬 選考結果の通知
⑥ 5月1日 新規協力隊の採用